

ページ	質問議員	質問事項
9	青木久男	<ul style="list-style-type: none"> ●議会報告会での要望の中から ●新型デジタル教材の導入活用を ●町名PRの一方策
10	上野尚徳	<ul style="list-style-type: none"> ●フィルムコミッション（映画の誘致）について ●町の情報発信について ●環境学習への取り組みについて ●PFIによる施設の整備について
10	奥田とみ子	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢化社会・安心生活を支えるには
11	大沢 淳	<ul style="list-style-type: none"> ●住民サービス向上のための職員体制 ●大雪に強いまちづくり ●町内の医療体制の充実 ●ろう者・聴覚障害者の社会参加推進と手話言語条例の制定に向けて ●学校における食育推進と栄養教諭の体制拡充
11	水上邦雄	<ul style="list-style-type: none"> ●介護要支援1、2の保険給付対象から外すことについて ●特別養護老人ホーム入居者の重点化について ●自転車の利用拡大と道路問題について
12	上野克也	<ul style="list-style-type: none"> ●地域防災力の強化 ●民間資金を活用した事業展開



6人が登壇

3月定例議会では6人の議員が一般質問を行いました。その中から主な質疑応答の要旨を、質問した議員の要約により掲載します。
 なお、会議中の発言と答弁の詳細は、伊奈町議会ホームページおよび図書館に備えてある会議録でご覧になれます。（5月下旬掲載）



町名PRの一方策



あおきひさお
青木久男 議員

毎年バラまつりで町を訪れる人は数万人、それに県民活動センター、昨年新増築されたがんセンター等県の施設も充実しており、町への関心は高まりつつある。そこで町名を更に広め観光や人口増につながる一方策を2点提案する。

ニューシャトルに伊奈名を

問 ニューシャトルは伊

奈に通じる路線であることを広く町外にPRするため、ニューシャトル伊奈線と伊奈の名を入れるべきだ。
 答 今後町のPRにもつながるので、刊行物やホームページでの表記を埼玉新都市交通・伊奈線（ニューシャトル）と正式名称に改めていく。

圏央道に伊奈名を

問 11月末発行の国交省の案内では桶川北本と白岡菫蒲両ICの間10・8kmは平成26年度開通予定だ。間の仮称桶川ICは伊奈に近いのでぜひ両脇のインターのように二つの地名を使い桶川伊奈ICとしたいがどうか。

答 桶川ICは桶川加納



工事中の圏央道

映画の誘致で、町のPR活性化をねらってみては



うえのののり
上野尚徳 議員

問 無線山の自然環境桜学校等含む）や、町の魅力スポットを活用した映画の誘致をし、タウンプロモーションに取り組んでみては。

答 飲食店や商店等への経済効果や、町のイメージアップが見込まれる。積極的に進めていきたい。町の情報発信について



町役場に設置された急速充電設備

問 以前、フェイスブックによる情報発信を提案した。長野県佐久市では大雪災害で大きな成果を上げた。町の進捗状況は。

答 平成26年度中の、町公式フェイスブックの開設に向け進めている。問 大宮駅の通路に動画を配信する70インチ縦型モニターが設置される。バラまつり等のイベント情報や、町のPR動画を発信してはどうか。

答 動画が完成した際には、前向きに検討したい。問 環境保全への意識付けのため、保育所等で、ゲーム等を交えた出前講座を行ってみてはどうか。答 他自治体の実例等を参考としながら実施に向けて考えていきたい。問 環境問題への率先垂範で導入した電気自動車。環境学習会や文化祭等で試乗会を行ってみては。答 あらゆる機会を通して活用していきたい。住民ニーズに素早く対応した施設の整備を

高齢化社会・安心生活を支えるには



おくた
奥田とみ子 議員

地域包括ケアの構築をはかるには

問 現状の課題と今後の方向性とは。

答 地域包括ケアとは、医療・介護・生活支援・予防・住まいを一体的に提供し、介護が必要になつた時、住み慣れた家・地域で安心した暮らしを実現するもの。実践するには、訪問診療・訪問看護が不可欠で、医療機関との連携・協力は難しい問題だが、町として今後、地区医師会や県央地区保健医療協議会と協議し、在宅医療の推進に努めていく。



伊奈町ふれあい福祉センターの中にある地域包括支援センター

問 高齢者のニーズ調査その方法と内容は。

答 平成26年度、介護保険事業計画の策定において、ニーズ調査の実施を予定している。調査対象は、65歳以上の被保険者9千人の内、2千人程度とし、聞き取り調査又は、郵送による調査を予定している。調査内容は、住まいや家族、病気や障害、介護認定の有無、介護サービスの利用状況等を予定している。

問 24時間定期巡回、随時対応型訪問介護の現状は。

答 新しいサービスで、普及していない状況だが、事業者指定できるよう関係機関と連絡調整している。

伊奈病院の移転計画



おおさわ じゅん
大沢 淳 議員

問 計画の概要は。
答 一心会から羽貫に病院の建設を目的とした、農業振興地域からの除外申請が出て認可されている。

いる。救急医療の受け入れ体制や診療科目の拡充などを要望したい。
大雪に強いまちづくり

問 医療体制充実に向けて働きかけること。

問 大雪による被害状況は。

答 9農家のビニールハウス19棟が倒壊、被害総



伊奈病院

額584万円。

各家庭のカーポートの支柱が折れているのが確認された。

問 町の体制は。

答 地域防災計画の風水害対策で対応した。

障害者、高齢者等には要援護者避難支援プランで対応する。

住民サービス向上のための職員体制

問 町の職員数の状況は。
答 人口1万人当たりの職員数は近隣の町より少ない。

学校における食育推進と栄養教諭の体制拡充

問 栄養教諭を一校に一名配置すること。

答 センター方式をとっているため厳しいが、県教育委員会に働きかけた。

介護要支援1と2を
保険給付対象から外す方向だが



みずかみ けんじ
水上邦雄 議員

問 要支援1と2の認定者数と利用者数は。

答 認定者250人、利用者108人。

問 要支援町事業とした場合の運営基準は。

答 利用上限額は不明。専門職とボランティア

アの役割分担は。

答 生活支援をボランティア等に委託することで費用を抑制する考えだが、一定の理解ある人が係ることが必要と考える。

特別養護老人ホーム
入居者の重点化は

問 要介護1と2の認定者数と入所者数は。

答 認定者469人、入所者数20人。

問 要介護1と2で施設入所できない人の支援策は。

答 入所中の方は、例外的扱いになると認識している。在宅生活困難な場合は入所可能となる。

自転車の走行区分は

問 道路交通法の改正で自転車は路側帯の左側しか通行ができなくなったが。

答 歩道内は、13歳未満の児童と70歳以上の高齢者は歩行者優先で車道寄りを、徐行での走行は可能だ。

新幹線側道の一方通行規制のある道路は、自転車は規制対象外で自転車の交互通行は可能だ。



一方通行でも自転車の交互通行ができます

地域防災の中核とした消防団の体制と取り組み



うえののこくや
上野克也 議員

消防団の処遇改善

問 近年、局地的な豪雨や台風による自然災害が頻発し、地域防災力の強化が課題となるなか、消防団の重要性が注目を集めている。昨年12月に消防団を支援する「地域防災力を

充実強化法」が成立、施行された。今後町の対応は。答 退職報奨金は法律が改正されるため、一律5万円引上げと最低支給額を20万円とする条例の準備を進めている。また、公務災害補償では、国や県・町による消防賞じゅ



消防団放水訓練

つ金制度や、各種制度により充実している。

問 消防団車両の強化は。答 近隣の動向を見ながら検討したい。

問 北部地域に消防団施設の追加は。

答 消防署施設の検討と合わせて消防団施設の在り方について研究する。

問 団員定数の増と女性団員の入団は。

答 定数増や女性消防団員の参加は研究・検討していく。

民間資金を活用した事業展開

問 クラウドファンディングによる資金調達。

答 新たな資金調達の方法のひとつとして調査研究していく。

常任委員会視察報告

文教民政常任委員会

高齢者福祉
宅幼老所事業

視察地 相模原市「ポナビル」本松

焼津市「長者の森」

視察日 1月28日・29日

出席者は委員8名全員と事務局1名計9名です。

第一日目の視察先のポナビル本松では、矢野理事長、毛利看護師の説明をいただき、交流事業を視察させていただきました。

高齢者と子ども達の交



デイサービスで「ちぎり絵」

流のメリットは、子ども達が近くにいるだけで、高齢者の方々は笑顔になります。また、子ども達は頭を撫でられたり、握手をされると嬉しくて、いたわりの気持ちを持つことができるようになり、高齢者は、乳幼児と話したり、一緒に伝承遊びをする事で、尊敬されたり感謝されるので嬉しいとの事です。

開設者の活動理念としては、「子ども叱るな来た道じゃ、年寄り笑うな行く道じゃ」の精神で頑張



入所者と児童が交流

っていますとのことでした。

第二日目の焼津市・長者の森でも、お年寄りとお年寄りの交流の様子を視察しました。交流の概要は、運動会・クリスマス会などの大きな行事、また保育所で高齢者と子どもが一緒になっての交流が行われていました。「長者の森」の活動理念としては、少人数制だからできる「個」に対する関わりを大切に、個々の思いに目を向けるケアや保育を目指しているとのことでした。

事例的には、味噌汁を蓋付のお椀で出した時、認知症のお年寄りは自分の蓋は取れませんが、隣の子どもの蓋なら取れるそうです。自分で役立つと思うための効果が見られるそうです。